

## 「2017 年度栄養士・管理栄養士部会トレーニングセミナーを受講して」

医療法人社団 恵生会 上白根病院  
宮崎 要

JSPEN 会員になって数年、今までは郵送される冊子を読む程度の幽霊会員でしたが、今年 NST 専門療法士の受験が可能となり、せっかく受講するなら必要単位を超える位、「仕事に活かそうなもの全部参加してみよう！」と思い、本セミナーにも参加させていただきました。

セミナー1日目は、静脈栄養、経腸栄養、心不全の講義・症例演習、2日目は、周術期栄養管理、術後回復期の栄養管理の講義・症例演習で、両日共に講義の途中で、クイズ番組のような○×回答をする箇所があり、双方向性のある内容で面白かったです。また、症例演習のグループディスカッションでは、1つの症例に対し様々な回答を聞くことができ、多角的に考える機会をいただけて大変勉強になりました。

日々の業務では、終末期の患者様に経腸栄養法での栄養管理で携わる機会が多く、静脈栄養法と併用、または NPO となり PPN・TPN へ切り替わった際の栄養療法には苦手意識を持っていたため、二村昭彦先生の終末期の静脈栄養療法の講義が臨床現場で役立っています。静脈栄養の投与量が心情的側面に大きく依存している事、終末期では輸液が生命予後や症状に関与しないために過剰輸液を控える必要がある事、がん悪液質の段階や、その有無によって栄養管理を変更(ギアチェンジ)する事、必要時には早期に PVC から CVC へ変更できるよう準備する事などを学び、近年海外で使用が増えている PICC や、CRBSI 予防対策などは画像が多く理解しやすかったです。また、症例検討時の「臨床症状加算式総合評価表」によって、生化学検査や身体所見からの判断とは別に患者様の苦痛や欲求を数値化してみる事ができ、治療効果を QOL の面からも判定できるため、ぜひ実務に活かしたいと思いました。

最も印象に残った講義は、参加された方の多くが総括時にお話しされていた、2日目の海道利実先生の講義です。「肝胆膵外科領域における周術期栄養管理」というテーマの中、何かひとつのショーを観ているような、新鮮なひらめきに満ちた内容でした。専門性を持ちながら、それとは別の引き出しをいくつ持っているかで、物事を(医療に携わる者であれば症例を)多角的に見る事が出来ると感じました。このセミナー受講後、遅ればせながらドラッカー名著集を読破致しました。「多角化に成功するためには共通の技術が必要。専門性は経験でしか学べない。情報ではなく理解である。」とあり、ガイドラインやテキストブックを頭に入れ、栄養士として専門性を発揮できるよう日々是勉強だと痛感しております。

今回は会場が東海エリアで、開始時間も午後からだったので、初日は国宝犬山城や熱田神宮など見てまわるなど、物見遊山ではありませんが、充実した時間を過ごすことが出来ました。

2月の学術集会(岡山)で目にした、ALL FOR A PATIENT の熱い志を持った先生方のように、私も患者様の為に今後も自己研鑽に励みたいと思います。ありがとうございました。

